

一、第四回國際労働會議に出席する労働代表選出に関する件
選出方法を誤まれる労働代表の選出に極力反対し更に労働會議の假面を被れる國際資本家會議
なりと断定し我等は會議そのものを否認す
といふ決議をなし、我が組合の存在する全工場は全部棄權した。

◇川北電機製作所混業

男女工を合して當製作所從業労働者は千百餘名であつた。而して電機製作所としては、東京の三
浦や、日本電氣と共に其効力を示す大工場であつた。それが不況を理由として六月二十一日より請負
工場である煽風機工場に三割五分の置價値下を發表した。

これが導火線となつて更に會社の劣化なる搾取に不平と反感を有する煽風機工場の一般從業員は植木反対の運動を起した。

それと同時に解雇手當や退職手當の設定を要求した。

要　求　書

書(八月四日第四課提出)

一、請負制度を廢し四割の請負手當を本給に織入る事

二、残業を廢止する事、但し止を得ざる場合は七時半迄を限度とし作業する事を得るも、此の場合は植木反対の運動を起した。

合は四十五分間の労働一分五厘を支給する

三、左の解雇手當を制定する事

勤続一ヶ年未満の者　五十日分

一ヶ年以上一ヶ月増毎　四　日　分

一ヶ年以上一ヶ月増毎　三　日　分

五ヶ年以上一ヶ月増毎　五　日　分

を加ふる事、外に歸國手當委託者に五十圓獨身者に三十圓

四、工長組長伍長を職工の公選に依り任命する事

而してこれの交渉委員であつた左の八氏を會社は速座に解雇した。

久保時蔵　藤原伊之助　平川高藏　橋本治三郎

中尾義藏　和田百一　徳田英治　中田忠一

斯くて會社の挑戦的な態度に憤慨し煽風機工場は總罷業になつた。

第四課煽風機工場の罷業は漸く擴大し、九日の午後工場退けから、今朝の笠井ハリモノ工場に川

北電氣製作所の全職工が集合して職工大會を開き、今回の爭議に關して種々協議を重ねた。

職工大會は第四課の主張を正當と認め、而してこれは單に第四課工場のみの問題にあらずして、全職工の死活に關する重大なる問題なれば、全職工の要求であることを決議し、翌十日堤義蔵の二

氏を職工の代表者として會社に接衝せしめる事となつた。

要　求　書